

「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、知事の政策スタッフとして、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成30年4月

福井県知事 西川 一 誠

観光営業部長 江 端 誠一郎

30年度の施策

1 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略

◇「幸福日本一・福井」の新ブランド戦略【部局連携】

○「福井の知名度・好感度」全国上位へ **チャレンジ施策**

- ・夏を中心に、映画「ジュラシック・ワールド炎の王国」の公開やドラマ「チア☆ダン」の放送などの話題性を活用し、全国に向けてタイアッププロモーションを展開します。
- ・幕末明治福井150年博などイベントの開催や、季節ごとの食材や行事等に合わせて、旅行会社への商品造成の働きかけや観光プロモーション、メディアへの情報発信などを一体的に推進し、にぎわいを創出します。

○福井のアニバーサリー **チャレンジ施策**

- ・幕末明治福井150年博については、歴史博物館において、本邦初公開資料等を展示する特別展を開催するほか、県・全市町の文化施設において、幕末明治に関する企画展を切れ目なく開催します。
- ・国体・障スポの来県者や県外観光客などに、県内各地の企画展などを通して福井の歴史に触れる機会を提供します。
- ・四賢侯シンポジウムや天狗党の足跡を巡るツアー、インターネットでの「幕末明治福井検定」など、ゆかりの県との連携事業や若者・女性の参加を促す多彩なイベント等を展開するほか、旅行会社への売り込みやメディア等への情報発信を行います。

○福井が舞台の「大河ドラマ」

- ・幕末明治や戦国に活躍した本県の先人たちが主人公となり、福井を舞台とした大河ドラマの実現に向け、大河ドラマ誘致推進協議会を中心に、NHKへ強力に働きかけます。
- ・歴史番組や雑誌、小説、ドラマ等で取り上げてもらえるよう、幕末明治福井150年博の展示等について情報提供するなど、NHKをはじめ民放、出版社等に対する営業活動を強化し、本県の先人の知名度向上を図ります。

◇「恐竜溪谷１００万人構想」の実現【部局連携】

○楽しみ学べる恐竜博物館

- ・恐竜系統図等を作成し恐竜授業等において活用するほか、企業と共働した子ども向けの恐竜セミナーを開催するなど、恐竜博物館の教育普及機能を強化します。 **チャレンジ施策**
- ・勝山市の「恐竜LABO」の活動を支援するなど、地域における恐竜学習の場を提供することにより、子どもたちが恐竜に関心を高める機会を増やし、ふるさとへの愛着を醸成します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
恐竜博物館入館者数	93 万人/年	90 万人/年	80 万人/年	90 万人/年

- ・新たな恐竜博物館について、整備の可能性を探るため、博物館に必要な機能や概算事業費、経済効果等について改めて整理します。また、整備・運営手法や立地場所について検討します。

○恐竜学研究の世界拠点へ【共同研究】

- ・第４次恐竜化石発掘調査において、骨化石の密集エリアを掘削、調査するほか、中部縦貫自動車道のトンネル工事の本格化に合わせ大野市和泉地区でも化石調査等を実施します。
- ・国内をはじめ、中国、タイなど海外での共同発掘調査・研究を継続して進めます。また、県立大学とゴビ砂漠での化石発掘調査を開始し、世界レベルの研究を進めます。

○恐竜ビジネスの拡大

- ・県内外の博物館に加え、商業施設等に骨格化石等を貸し出し、巡回展を開催するなど、歳入の更なる確保に努めます。 **チャレンジ施策**
- ・企業等に対する営業活動の強化や企業とのコラボ、経済団体等との連携強化により、恐竜を活用した商品を開発・販売します。
- ・勝山市が整備したジオターミナルと連携し、県内企業による恐竜関連商品の販売機会を拡大するほか、来訪者の県内・市内への周遊観光を促進します。

◇観光フロンティア・福井【部局連携】

○100万人観光地の創出

- ・大本山永平寺、永平寺町、県が協力・連携して進める、旧参道の再整備などの永平寺門前の再構築プロジェクトを着実に推進し、国内外から誘客できる環境を整えます。
- ・北陸新幹線敦賀開業、中部縦貫自動車道全線開通に向けて県内を訪れる観光客の滞在時間と観光消費額を増やすため、6つの事業エリアごとに策定した周遊・滞在型観光推進計画に基づき、複数の市町、観光団体や民間事業者が連携し実施するソフト・ハード事業を支援します。

チャレンジ施策

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (見込み)	30 年度 (目標)
100 万人観光地数 (暦年)	4 か所/年	3 か所/年	2 か所/年	5 か所/年

○観光客 1300 万人の実現

- ・北陸新幹線金沢開業による誘客効果を持続させるため、民間事業者ともコラボし、引き続き上野駅など首都圏や新幹線沿線において、集中プロモーションや魅力発信の事業を効果的に実施します。
- ・小松空港を活用した誘客拡大を図るため、機内誌で県内観光地を紹介するほか、機内食で福井の料理を提供するなど、大手航空会社等と連携した誘客プロモーションを実施します。
- ・若狭さとうみハイウェイや京都縦貫自動車道を活用して誘客拡大を図るため、日本遺産など共通の素材を活かした観光ルートを開発するなど、京都府、滋賀県等と連携し広域周遊観光を推進するほか、嶺南 6 市町とともに「海湖と歴史の若狭路」キャンペーンを実施します。
- ・北陸新幹線敦賀開業による首都圏からの利便性向上に備え、コンベンションの誘致活動、開催時の負担軽減等の支援を強化し、本県への観光誘客拡大を図ります。 **チャレンジ施策**
- ・幕末明治福井 150 年博や福井しあわせ元気国体・障スポの開催による全国からの誘客を進めるとともに、「ガイドブック」などを活用し、より多くの福井の観光地や魅力の周知を図ります。 **チャレンジ施策**

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (見込み)	30 年度 (目標)
観光客入込数 (暦年)	1,270 万人/年	1,347 万人/年	1,304 万人/年	1,350 万人/年
観光消費額 (暦年)	937 億円/年	967 億円/年	977 億円/年	1,000 億円/年

※県観光統計では 28 年度から時点修正後の積算係数を用いた数値を公表しているが、経年変化を見るため、同年度以降も修正前の係数を用いた数値としている。

○奥越を自然環境の体験学習エリアに

- ・通年楽しめる北陸唯一の人工ゲレンデを有するスキークラブを中心に「通年型・滞在型の体験学習・スポーツエリア」として、大野市や民間と共働したイベントの実施、教育旅行やスポーツ合宿の誘致など、六呂師高原全体の誘客拡大を図ります。

○海外誘客の強化

- ・アジアや欧米等からの誘客を拡大するため、海外の旅行会社のほか、国内の旅行サービス手配業者等に対して“ZEN”ブランドを活用して本県の魅力を売り込みます。
- ・香港において石川県と共同で観光説明会を開催します。また、台湾に観光営業窓口を設置し、現地旅行会社への訪問営業を実施するほか、県内観光事業者による営業活動に対して支援を行います。

チャレンジ施策

- ・「昇龍道」や「美の伝説」、「北陸新幹線沿線」など広域観光周遊ルートについて、近隣府県と連携して海外旅行博等でその魅力を売り込み、エリア内への誘客拡大を図ります。
- ・台湾や中国等からの教育旅行の誘致を図るため、現地説明会に参加するほか、県内への教育旅行関係者の視察を促進します。
- ・外国人受入環境の整備促進のため、県内市町等と連携し消費税免税店対応を促進するほか、観光事業者等を対象にした外国人接客のための研修会を開催します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
外国人宿泊者数 (暦年)	56,000 人/年	54,400 人/年	68,400 人/年 (速報値)	85,000 人/年
消費税免税店数 (累計)	34 店 (42 店)	17 店 (59 店)	11 店 (70 店) (見込み)	15 店 (85 店)

○観光人材の育成

- ・ 福井県観光アカデミーを引き続き開講し、本県観光におけるイノベーションを創出するため、現場感覚と理念の両方を持って、観光産業やまちづくりをマネジメントできる人材を育成します。
- ・ 福井県認定観光ガイド養成講習会を開設し、多彩な観光コースの提案が行える人材を育成し、道の駅や観光案内所等での活動を促進します。
- ・ 福井しあわせ元気国体・障スポの開催による来県者へのおもてなし力を高めるため、駅の総合案内所等において、認定観光ガイドや観光おもてなし認定者など観光人材を積極的に活用します。

2 国体・障スポの成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に

◇福井の文化をもっと身近に

○子どもの文化・芸術活動

- ・県内の小学5年生全員が参加する、県立音楽堂で本格的なプロオーケストラと県立美術館等での鑑賞を組み合わせた「ふれあい文化子どもスクール」を継続開催します。
- ・3年間で県内すべての中学校に福井ゆかりのプロの演奏家を派遣する「出張音楽堂」を、2巡目となる本年度も引き続き実施し、子どもたちが本物の芸術文化に触れる機会を提供します。
- ・学校鑑賞会として県立文化施設の企画展に児童生徒を招くほか、美術、書道、管弦楽、演劇等の分野において、将来、芸術家や指導者等を目指す中高生が一流の芸術家から直接指導を受ける機会を提供します。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
一流の芸術・文化を 体験する子どもの数	77,143 人/年	78,175 人/年	79,080 人/年	80,000 人/年

○文化施設の活性化 **チャレンジ施策**

- ・幕末明治150年博の展示会場として、福井ゆかりの重要資料の蒐集を進めながら、往時の福井の魅力や各地域が輩出した先人、産業・文化等をテーマにした特別展等を開催し、誘客拡大に努めます。

（歴史博物館）

- ・150年博のメイン会場として、本邦初公開資料など、貴重な本物の資料を多数展示する「幕末維新の激動と福井」展（9～11月）を開催し、福井藩や福井の諸藩の幕末維新期の役割を県内外に発信します。
- ・「映像で見る幕末明治福井館（仮称）」や「大河ドラマ館」を整備し、幕末明治に関係する映像や関係資料を一堂に公開するなど、先人の功績、当時の魅力を県内外に強力に発信します。

（若狭歴史博物館）

- ・幕末から明治へと変わりゆく時代に若狭の人々によって育まれた豊かな文化的世界を紹介する特別展「うきたつ人々～幕末若狭の祭礼・風俗・世相～」（10～11月）を開催するなど若狭の歴史・文化を全国に強力に発信します。

（美術館）

- ・開館40周年記念として、ウェールズ国立美術館の豊かなコレクションを紹介する「ターナーからモネへ」展（4～5月）、本県ゆかりの岡倉天心の意思を引き継ぎ横山大観らが再興した日本美術院による日本画の公募展「再興第102回院展・福井展」（6月）、フランス国立図書館の版画コレクションから巨匠ピカソの作品を紹介する「ピカソ版画 大回顧」展（7～8月）などを開催します。
- ・150年博の一環として、幕末明治期に活躍した福井ゆかりの作家などの作品を広く紹介する特別展（9～11月）を開催します。

3 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

◇福井が誇る歴史遺産の発信

○日本最大の戦国城下町「一乗谷ミュージアム」化推進

- ・一乗谷朝倉氏遺跡博物館(仮称)の「展示・ガイダンス棟」の平成33年度内の開館を目指し、建築および展示の実施設計を行います。
- ・日本トップレベルの中世都市遺跡研究の拠点化に向け、考古、文献、建築や庭園史などの分野を超えた調査・研究を進め、特別名勝庭園の再生・鑑賞化など遺跡の魅力を一層向上します。
- ・遺跡全体の魅力向上と観光誘客の拡大を図るため、地元福井市との間で、取組体制や既存事業の見直し・充実などについて協議を進めます。

○福井の遺産を日本・世界遺産へ

- ・日本遺産に認定された「御食国若狭と鯖街道」、「北前船寄港地・船主集落」および「六古窯」について、関係市町と連携して県内外に発信し、誘客拡大を図ります。さらに、一乗谷朝倉氏遺跡など中世の歴史遺産をはじめ、本県に集積する魅力ある遺産群の「日本遺産」認定を国に働きかけます。
- ・昨年、国の重要無形文化財に指定された「越前鳥の子紙」について、他産地とも連携しながら、ユネスコ無形文化遺産の「和紙」への早期追加登録を目指します。また、「糸崎の仏舞」の渡来芸・舞台芸分野での登録、「水海の田楽・能舞」、「睦月神事」の田楽分野での登録を国に働きかけます。

○豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に

- ・ふるさとの伝統的民家・まちなみ保存の拡大を図るため、「福井ふるさと百景活動団体」と「伝統的民家群保存活用推進地区」の認定・指定を継続して進めます。

目 標	27 年度 (実績)	28 年度 (実績)	29 年度 (実績)	30 年度 (目標)
福井ふるさと百景活動団体・伝統的民家群保存活用推進地区（累計）	11 団体 (66 団体)	10 団体 (76 団体)	9 団体 (85 団体)	8 団体 (93 団体)

- ・福井らしい特徴を持つ市町を越えた広域的な景観を発信するため、6つの景観軸ごとに構成市町等と事業計画策定や実施のための協議を進め、景観づくりや保全に必要なハード事業への支援を行います。
- ・越前海岸の水仙畑については、平成32年度（2020年度）の重要文化的景観選定を目指すための保存調査を継続し、報告書を作成します。